



大学と地域による協働活動：大学と小学校による コラボレーション授業の評価

著者	根来 佐由美, 上野 昌江, 北川 未幾子, 大川 聡子 和泉 京子
引用	大阪府立大学看護学部紀要. 21, p.75-83
URL	http://doi.org/10.24729/00005515

資 料

大学と地域による協働活動 —大学と小学校によるコラボレーション授業の評価—

Collaboration Activities by University and Community — Evaluation of Collaboration Class with University and Elementary School —

根来 佐由美¹⁾・上野 昌江¹⁾・北川 末幾子¹⁾・大川 聡子¹⁾・和泉 京子²⁾
Sayumi NEGORO¹⁾, Masae UENO¹⁾, Makiko KITAGAWA¹⁾, Satoko OKAWA¹⁾, Kyoko IZUMI²⁾

キーワード：コラボレーション授業, 健康教育, 小学校

Keywords: Collaboration class, Health education, Elementary school

要 旨

大学生の健康教育演習と小学生の総合学習をマッチングしたコラボレーション授業を実施しその評価を行った。授業後に小学生は【健康教育への評価】、【今後の行動目標】、【行動変容の内容】、【自分の将来構想】等の感想を、大学生は【小学生の理解度を確認する】、【教育内容を振り返り補足説明する】、【小学生から生の反応をえる】、【小学生に期待する】、【自分が実施した教育を評価する】等の感想を記載していた。小学生は大学生から健康教育を受け行動変容が促されるとともに、大学生を身近な存在と捉えロールモデルとしたり、ピアエデュケーションとなる効果があった。また、大学生は小学生と直接接することで対象理解を深めたり、小学生の行動変容の方略を学んだり、大学生自身が新たな力の発見をするなどの効果があった。コラボレーション授業では、大学生と小学生が情緒的な刺激を受けあうことで相互理解が深まるとともに経験値の向上や自信の獲得も望め、今後も継続していく必要性が示唆された。

I. はじめに

本学地域看護学分野では平成20年度よりA市B地域住民との直接的な関わりを重視した地域活動や教育に取り組んできた。対象とする地域住民は主にB地域のNPO等の各種団体や地区組織のメンバー（民生委員や校区福祉委員）、地区に住む高齢者であった。地域看護学分野の教員や大学院生が地域行事に参加し、定期的に身体計測や健康相談や健康教育を実施したり、大学院生や大学生が住民主体のデイサービスやサロン、独居高齢者を対象とした配食サービス活動等にボランティアとして参加したりするなどアウトリー型の

地域活動を継続してきた。また、地域で活動する自主組織メンバーを大学の授業に招き、住民自身の活動について大学生に話してもらうなどのグループワーク演習を取り入れた授業にも取り組んできた。今回、小学校と連携した授業に取り組むことになったきっかけは、同地域の小学校教員より、現在小学校では総合学習として5年生を対象に「食育」をテーマにした学習をしているが本学が所有している食育SATシステム（以下SATとする）を活用できないかと大学の地域看護学分野教員に対し相談があったためである。SATとは Satisfactory Alacarte Tray systemの略であり、食育SATシステムとは栄養情報を書き込んだIC

受付日：2014年9月26日 受理日：2014年12月12日

1) 大阪府立大学看護学部

2) 武庫川女子大学看護学部

タグを埋め込んだ食品模型を専用読み取り機に載せると栄養評価が表示される機器のことであり健康教育の媒体として使用できるものである。

大学では2年次生の生活支援論：地域Ⅱの授業で保健指導技術として個別支援である家庭訪問と集団支援である健康教育の演習を行っていた。従来の健康教育演習では学生が住民役となり、学生だけで健康教育の実施と評価をおこない直接住民を対象とした健康教育は3年後期以降の臨地実習までできていなかった。そこで、小学校と大学の両方で授業をマッチングできないか話し合った。単にSATを貸し出したり、大学が小学校に出向きSATを用いた健康教育を行ったりするのではなく、小学生に大学に来校してもらい、大学生が演習の一環として小学生にSATも含めた健康教育をすることとした。大学生にとっては直接小学生に対し健康教育を実施でき、小学生にとっては初めて大学内に入り大学生と交流できる機会となり、両者のメリットを同時に満たすことができると考えたためである。また、両者が地域に開かれた学校として理解し合い、今後も交流を深めあえると考えたためである。なお、今までに小学校との交流では小学生が地域のバリアフリーマップを作成する際に、希望した大学生がボランティアとして加わることはあったが授業の一環として取り組むことは今回が初めてであった。両校の意向をマッチングしコラボレーションさせた授業（以下この取り組みをコラボレーション授業と称する）に取り組むその効果を評価した。

II. 目的

本研究の目的は、大学2年次生が生活支援論：地域Ⅱの授業で取り組む健康教育演習に小学5年生の総合学習をマッチングさせたコラボレーション授業を実施し、その評価として①小学生への健康教育の効果、②健康教育演習の効果、③大学と小学校が連携したコラボレーション授業の効果を明らかにすることである。

III. 方法

1. 授業目的と実施時期

生活支援論：地域Ⅱの授業で実施する健康教育演習の目的は、健康教育の計画立案から実施、評価に至るまでのプロセスを経験することで健康教育の技法を習得することである。小学生の総合学習をマッチングさせたコラボレーション授業で

は、小学生が大学生から直接健康教育を受け健康に関する知識を身に付け、日常生活をふりかえることで望ましい生活習慣の確立や行動変容を目指すことを目的とした。また、大学生が実際に存在する小学生を対象に健康教育のプロセスを経験することで健康教育の技法をより具体的に習得することを目的とした。さらに、学生間（小学生と大学生）、学校間との相互理解や地域交流を深めることも目的とした。本授業は平成24年1月に実施した。

2. 授業対象

本授業の対象はB地域の小学5年生と本学2年次生とした。

3. 授業の準備内容

コラボレーション授業の展開にあたり、総合学習に取り組んでいる小学校では事前に担任と家庭科担当教諭の「家庭科」や「総合」の授業でバランスのよい食事に関する学習がおこなわれた。小学5年生は3クラスあり、各クラス内で4～5人ずつの班をつくり、現在の夕食の献立と理想とする夕食の献立を班で1つずつ考えたうえで当日参加した。

大学生は小学5年生の児童の成長発達や生活実態、健康課題についての事前学習を行い、小学5年生という対象の特性への理解を深めた。その後、健康教育指導案作成、媒体やシナリオづくり、発表の練習を行った。それぞれに費やした時間数は健康教育指導案の作成2コマ（3時間）、健康教育媒体・シナリオづくり・発表の練習2コマ（3時間）であった。大学生は5～6人ずつの10グループに分かれ、健康教育のテーマが同じにならないように調整し、SATを使用した食事に関する内容2グループ、SATを使用しない食事に関する内容2グループ、他に運動、睡眠、生活リズム等を6グループが行うようにテーマを決定した。

4. 健康教育の実施

大学生は各グループ1テーマ15～30分間の健康教育を実施した。10グループのテーマの内訳は表1に示した。教育は5か所の教室を使用し、小学生がクラス単位で移動する形とし、小学生の各クラスは、4つの健康教育を受けた。なお、授業終了後には、大学生は健康教育を評価し感想文を記載した。小学生は、感想文の記載や大学生から受けた健康教育の内容を取り入れた調理実習や授業参観でこの授業の振り返りを行った。

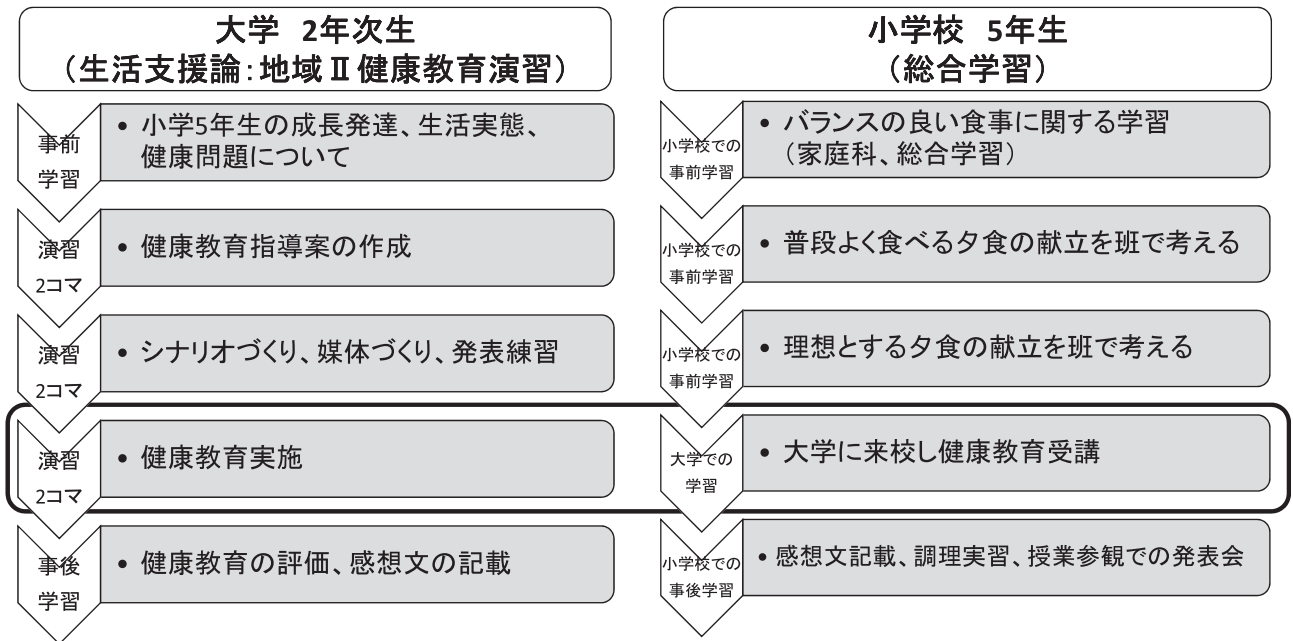


図1 コラボレーション授業の概要

5. 評価方法

評価は授業終了後小学生に実施したアンケート、小学生と大学生が記載した感想文、小学校教員からの報告を用いた。小学生に実施したアンケート内容は5項目(わかりやすかったか、楽しかったか、印象に残った内容は何か、大学生による授業を今後も受けたいか、今後受けたい授業内容)とした。学校長と学年主任の教員に依頼し、小学校に戻ってからの授業時間を利用し児童に回答してもらった。小学生と大学生の感想文の記載内容は、項目ごとに分類し、小学校教員からの報告内容は要約して記述した。分類や要約は授業にかかわった大学教員複数名で行った。

6. 倫理的配慮

小学生へのアンケート実施に際しては、学校長ならびにクラス担任の了承を得、小学生には回答は自由意思であることを担任から説明してもらいアンケートの提出をもって同意とみなした。小学生が記載した感想文の分析に際しては、学校長ならびにクラス担任の了承を得た。小学校ではアンケート結果や感想文は無記名で授業評価等に使用する旨の説明を後日の授業参観で保護者に対し説明し、異議等の有無を確認し同意を得てもらっている。大学生に対しては、感想文は個人の成績評価ではなく、小学生やその保護者や小学校の先生に無記名で公表する旨や授業自体の評価に使用する旨を説明し、同意が得られない場合は申し出てもらう形で同意を得た。小学生、大学生いずれの感想文の分析においても、個人が特定されないよ

う配慮した。また、小学校教員から得た報告内容についても、授業評価に使用する旨の説明と同意を得、個人が特定されないように配慮した。

IV. 結果

1. 参加者と健康教育の内容

参加者は小学5年生106名、大学生65名であった。大学生が実施した健康教育の内容は、SATを使った演習2グループ、SATを使用しない食事2グループ、睡眠2グループ、視力1グループ、防煙1グループ、運動2グループであった(表1)。

SATを用いた演習2グループは、「目指せ!5つ星!キミの晩ごはんは大丈夫?」、「バランスの良い夕食を食べてモチモチになろうッ!」というテーマで、小学生がクラスの班単位で事前に考えてきた夕食メニューについてSATを使って食事バランスや栄養素の過不足等の確認をし、どのように工夫すると改善できるかを小学生に伝えた。

SATを用いない食事2グループは、「朝ごはんは元気の源」、「ヘルシーな3時のおやつ」というテーマで、紙芝居形式で朝食やおやつの重要性について伝えた。

睡眠2グループでは「寝る子は育つ」、「眠っていいとも!」、視力1グループでは「目力アップクイズ!!」、防煙1グループでは「今日からあなたはたばこはかせ!」、運動2グループでは「君たちはゴールドンエイジだ!」、「遊んでエクササイズ!」というテーマで、模造紙に書いた図

表1 健康教育のテーマとその概要

グループ名	健康教育テーマ	概要	実施クラス		
			Aクラス	Bクラス	Cクラス
1	君たちはゴールデンエイジだ！（運動）	身体を動かす遊びの重要性について理解し行動に移すことを目的に、①小学生の一般的な生活時間、②テレビゲームによる体への影響、③身体を動かす遊びの利点と根拠について模造紙に書いた図表を用いながら説明した。			1～10班
2	遊んでエクササイズ！（運動）	運動により肥満を予防することを目的に、①肥満の原因、②肥満と生活習慣病との関連、③生活習慣病になったらおこること、④肥満予防の遊び（運動）について模造紙に書いた図や指人形による寸劇を取り入れながら説明した。	1～10班		
3	目力アップクイズ！（視力）	自分の生活を見直し、視力低下予防の行動をとることを目的に、①視力低下の仕組み、②現代の環境と視力への影響、③視力と食生活との関連、⑤視力低下予防によい目の運動について、模造紙に書いた図や実践（目の運動）を取り入れながら説明した。		1～10班	
4	寝る子は育つ（睡眠）	自分の生活を見直し、早寝早起きができることを目的に、①早寝早起きのメリットと睡眠不足によるデメリット、②睡眠に関連する成長ホルモンの作用、③実践してほしい生活習慣について模造紙に書いた図を用いながら説明した。			1～10班
5	今日からあなたはたばこはかせ！（防煙）	タバコの害について理解し、タバコを吸わない意志を持つことを目的に、①喫煙が自分の身体や他人に与える悪影響、②タバコをすすめられた時の断り方について、模造紙に書いた図を用いた説明や実際にロールプレーも実施した。	1～10班		
6	眠っていいとも！（睡眠）	睡眠の重要性を知り、十分な睡眠をとることを目的に、①睡眠不足による影響と睡眠の重要性、②望ましい睡眠時間について、小学生の1日を寸劇で演じながら説明した。		1～10班	
7	ヘルシーな3時のおやつ（食事）	おやつで栄養を補い健康増進に興味を持つことを目的に、①おやつに含まれる塩分やカロリー、②おやつに含まれる栄養素の違い、③望ましいおやつについて、模造紙に書いた図を用いて説明した。	1～5班	1～5班	1～5班
8	朝ごはんは元気の源（食事）	バランスの良い朝食を毎日食べることを目的に、朝食の重要性についてブドウ糖の話を中心に、朝食を食べた人と食べなかった人の比較を紙芝居形式で示したり、バランスの良い朝食メニューを食品サンプルを用いながら説明した。	6～10班	6～10班	6～10班
9	目指せ！5つ星！ キミの晩ごはんは大丈夫？（食育SAT）	小学生が現代の食生活において不足しているもの過剰なものを認識し、補ったり修正する食品を理解することを目的に、食育SATシステムを用いて小学生が考えてきた夕食メニューについて栄養バランスを確認の体験を行い、改善点について説明した。	1～5班	1～5班	1～5班
10	バランスの良い夕食を食べて モチモチになろうッ！（食育SAT）	バランスの良い夕食をとれることを目的に、食育SATシステムを用いて、小学生が考えてきた夕食メニューについて、足りない食材や栄養素（特にカルシウムや野菜）について説明した。	6～10班	6～10班	6～10班

表を媒体としたり、ロールプレーを取り入れたりした健康教育を行った。

2. 評価内容

1) 小学生のアンケート結果（表2）

アンケートには106名全員から回答が得られた。わかりやすさについては、「とてもわかりやすかった」70名（66.0%）、「わかりやすかった」34名（32.1%）がほとんどであった。楽しさについては、「とても楽しかった」101名（95.3%）、「楽しかった」5名（4.7%）の全員であった。今後の来校希望については、「また来たい」が105名（99.1%）であった。最も印象に残っている内容については、食育SATシステムが81名（76.4%）であった。次回、聞きたい健康教育の内容は、「視力」27名（25.5%）と最も多く、次いで「睡眠」11名（10.4%）であった。

表2 小学生のアンケート結果		n=106
項目		
わかりやすかったか	とてもわかりやすかった	70 (66.0)
	わかりやすかった	34 (32.1)
	少しわかりにくかった	1 (0.9)
楽しかったか	とてもわかりにくかった	1 (0.9)
	とても楽しかった	101 (95.3)
	少し楽しかった	5 (4.7)
	あまり楽しくなかった	0 (0.0)
また大学に来たいか	とても楽しくなかった	0 (0.0)
	はい	105 (99.1)
	いいえ	1 (0.9)
印象に残っている話 (複数回答)	食育SATシステム	81 (76.4)
	朝食やおやつの話	12 (11.3)
	それ以外	31 (29.2)
次回聞いてみたい内容 (複数回答)	視力	27 (25.5)
	睡眠	11 (10.4)
	たばこ	7 (6.7)

数字は人数、() 内は%を表す

2) 小学生の感想文の内容 (表3)

感想文の記述内容を大別すると、【印象に残ったもの】、【大学生と交流して嬉しかったこと】、【わかったこと】、【健康教育に対する評価】、【今後の行動目標】、【行動変容の内容】、【自分の将来構想】、【大学に対する要望】等であった。

【印象に残ったもの】として最も多かったものがSATシステム (12件) であった。【大学生と交

流し嬉しかったこと】では、SATシステムを使用できたこと、新たな知識を得ることができたこと、バランスの良い食事内容を考えることができたこと、大学生がわかりやすく説明してくれたり、優しく接してくれたりしたことなど、感謝の言葉とともにほとんど全ての児童が記載していた。【わかったこと】では、それぞれ自分が受けた健康教育の内容を記載しており、なかでもタバ

表3 小学生の感想文の内容

	感 想
【印象に残ったもの】	<ul style="list-style-type: none"> ・一番印象に残っているのは、SATシステム ・一番覚えているのは、「1メッツ」とか「メラトニン」 ・一番心に残ったのは、タバコの話 ・体力の話が印象的
【大学生と交流して嬉しかったこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人たちが、おでむかえしてくれてとても嬉しかった ・やさしく声をかけてくれてうれしかった ・助けてくれてうれしかった ・大学生のみなさんと一緒に勉強できてとてもうれしかった ・ていねいでわかりやすく、質問にも答えてくれて、すごうれしかった ・知らなかった事やわからなかった事が知れてうれしかった
【わかったこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体を大切にしなければならないとわかった ・体は健康にそして大切にしないといけないことがわかった ・おやつやひまん、体力のことなどにも気を配らないと良くないなと考えた ・運動のよさがとてもわかった ・ブドウ糖は脳にとって、とても大切な事だとわかった ・「朝ご飯って大切なんだ」と思った ・メラトニンがねむたくしてくれているのだと初めて知った ・健康のためには、バランスが大事という事を改めて知った ・タバコも体に悪いのはしっていたけど、どう悪いのかがわかってよかった ・タバコを進められても断る方法がよくわかった ・なぜ吸いたくなるのか、吸うとどうなるのかをちゃんと伝える事が大切だとわかった
【健康教育に対する評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・とても緊張していたと思うけど、すらすらと話していてわかりやすかった ・お兄さんやお姉さんの説明はすごくわかりやすかった ・絵などを使っておもしろくお話をしてくれたので楽しく身に付いた ・図や絵と人形劇ですごくわかりやすかった ・手書きの絵などを使って説明してくれてとてもわかりやすかった ・手作りの紙芝居やクイズなどで知らなかったことも知ることができた ・睡眠の話は、劇で説明してくれたのがわかりやすかった ・わかりやすく問題やクイズで教えてくれてとてもわかりやすかった ・聞いていて、とても聞きやすかった ・むずかしそうな題名をこんな楽しくすると工夫をすごくしたと思った
【今後の行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・(目がよくなる方法) ひまなときにやりたいと思った ・これからの生活に役立てていこうと思った ・これからはお母さんと食生活の事を考えてみたい ・これからは、ぜったいに毎日、朝ご飯を食べようと思った ・わたしも健康に気をつけたいと思う ・これからは早くねるようにする ・運動しないと生活習慣病になるので自分の生活を見なおしたい ・府立大学で勉強したことを生活に生かしたい ・近くにすっている人がいると「やめた方がいいで」と声をかけてあげたい ・タバコをすってもいい事はないのでお父さんにも言っておきたい
【行動変容の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・目がよくなる方法がわかったのずっとしている ・家でお母さんと話した ・タバコの話はお父さんもタバコをすっているからお父さんにも話してあげた ・みなさんの話を聞いて今までより少し早くねることにした ・睡眠の話を聞いて、宿題はやく終わらせて、はやくねるようにならなっている ・10時までにねる。朝ごはんを食べて学校に行く、ということはやっている ・私はごはんも最近気にして食べている
【自分の将来構想】	<ul style="list-style-type: none"> ・大学にいったらよかった ・大きくなって大学に入ったらこういう勉強もしたい ・私も立派な看護師になるようにならなっている ・「将来、看護師さんもいいな」と思った
【大学に対する要望】	<ul style="list-style-type: none"> ・またいろいろなことを教えて欲しい ・また、会いたい ・また、府大に行きたい ・次は小学校にも来て欲しい ・SATシステムを、もう一回やってみよう

コに関する内容が最も多かった。【健康教育に対する評価】では、「とてもわかりやすく説明してくれた」等説明の仕方に関する評価、「手書きの絵をつかってわかりやすかった」、「紙芝居やクイズでわかりやすく教えてくれた」、「劇で説明してくれてよかった」、「いつも食べているもので説明してくれてわかりやすかった」等媒体の使い方や教育方法に関する評価が記載されていた。【今後の行動目標】では、「食事に気をつける（朝ごはんを食べる，カロリーを気にする）」、「運動する（外で遊ぶ）」、「早く寝る」、「タバコを吸わない，タバコを断る」、「健康に気をつける」等の記載があった。【行動変容の内容】では、「早く寝るようにしている」が最も多く，他に「朝食や嫌いなものを食べるようにしている」，「お父さん（お母さん）に話した」等の記載があった。【自分の将来構想】では、「看護師になりたい」，「大学に行ってみみたい」等であり，【大学に対する要望】では，「また（勉強）教えてほしい」，「また会いたい」，「また大学に行きたい」等であった。

さらに「勉強を頑張ってもらいたい」，「立派な看護師になってほしい」と大学生に対する励ましの言葉の記載があった。

3) 大学生の感想文の内容 (表4)

記述内容を大別すると，【小学生の理解度を確認する】，【教育内容を振り返り補足説明する】，【小学生から生の反応をえる】，【小学生に期待する】，【自分が実施した教育を評価する】に分類できた。

【小学生から生の反応を得る】では「真剣に一生懸命話を聞いてくれた」，「積極的に質問してくれた」，「積極的に意見を言ってくれた」，「元気に挨拶・返事をしてくれた」，「予想以上に知識も豊富でしっかり勉強してくれていた」，「話をわかってくれた」，「楽しんでくれた」，「子どもたちの反応を生で感じる体験であった」，「子どもたちの元気な姿にパワーをもらった」，「小学生についての理解が深まった」等，小学生の反応に喜びを感じ小学生の能力を認めるなど，小学生を肯定的に捉えていた。また，【小学生に期待する】では，「今日の話のをこれからの生活に役立ててほしい」，と感じていた。【自分が実施した教育を評価する】では，「子どもたちとの相互作用のなかで楽しく発表できた」，「むずかしくわかりにくいところもあったと思う」，「もっとわかりやすく伝えられた」，「うまくできなかつた」，「クオリティが高くなかった」等であった。

4) 小学校教員からの報告内容

コラボレーション授業の後日，小学校教員から小学生のその後の反応や小学校内での取組みについて，「家族に大学生から受けた授業の内容を伝えていた」，「看護師になりたいという児童がいた」，「幼稚園児の面倒を積極的にみていた」等報告を得た。

V. 考察

1. 健康教育の効果

小学生のアンケート結果では，ほぼ全員がわかりやすく楽しかった，また大学に来たいと回答しており，小学生は今回の授業を肯定的にとらえていたと考える。津村ら(2012)は，保健指導技術である健康教育は単に知識や技術を伝えることだけでなく，よりよい健康を目指して態度や行動を改善するために行われると述べている。さらに，健康を目指した態度や行動は単に知識の提供だけで獲得できるものではなく，学習者が健康の実態を理解し自らの習慣を確認し，態度や行動変容による価値観を見出すことが学習への動機づけとなり，よりよい健康を目指した態度や行動変容につながると指摘している(津村ら，2012)。川田(2003)は健康教育において，健康にとって好ましい行動を自己選択し，自己決定するというプロセスを経てはじめて行動の変容を成功させることができると述べている。大学生から健康教育を受けた小学生は，感想文に今後の行動目標に関する内容や行動変容に関する内容を記載していた。大学生が実施した健康教育は，学習者である小学生が日頃の生活習慣を振り返り，健康に対する価値観や自分たちの今後の課題を見出し，目標を立てるきっかけづくりの支援となっており，行動変容につながったと考えられる。

2. 健康教育演習の効果

健康教育実施後に大学生が記載した感想文には，健康教育で伝えなかったことや伝えきれなかったことなどをわかりやすく補足説明しており，大学生が小学生に一生懸命伝えようとしている気持ちを読み取ることができた。石井ら(2006)は，学生は健康教育の技法として教育実施中に対象の反応を捉え，自らの教育方法を評価し改善を加えることでその目的に沿った教育となることを学ぶと述べており，大学生は健康教育の方法論を学ぶ過程において，普段接する機会がほとんどない小学生と接し，生の声を聞き反応を得るとい

表4 大学生の感想文の内容

項目	感想
【小学生の理解度を確認する】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康のことについてきちんと学習できましたか？ ・体を動かすことの大切さについて、みなさん、理解していただけましたか？ ・私たちがお話しした「体を動かすことの大切さ」について、理解できましたか？ ・しっかり学んでもらえましたか？ ・大学から帰った後、自分の食事について考えてくれたかな？ ・おうちの人と食事について話したりしたのかな？ ・睡眠の大切さについて少しはわかってもらえましたか？ ・伝わったかな？ ・今日はたばこについてくわしく知ることができたかな？ ・内容覚えていてくれるかな？ ・栄養のバランスについて学んでもらえましたか？
【教育内容を振り返り補足説明する】	<ul style="list-style-type: none"> ・とても大切なことなので、しっかりわかるようにと思って説明しました ・バランスを考えたメニューを作れることはみなさんが将来自立した時にきつと役に立つと思います ・これから少しずつでもいいので、少し健康に気をつけて食事をしてもらえればうれしいです ・普段あたり前に行っている“食べる・寝る・動く”をこの機会にもう一度考えてみてください ・大事なポイントは〇〇だよ！ ・自分の体についてもっと興味を持ってもらえると嬉しいです ・今回の学習では食事について改めて考えることができたのではないのでしょうか？ ・将来のためにも栄養バランスがとれた食生活を行うは大切なことです ・知ることも大事ですが、知っているだけでは意味がありません
【小学生から生の反応をえる】	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に一生懸命話を聞いてくれた ・積極的に質問してくれた ・積極的に意見を言ってくれた ・元気にあいさつ・返事してくれた ・みんなの元気な姿にびっくりした ・とても元気が良く、私たちが発表しやすい環境を作ってくれた ・とても楽しんで参加していただいている姿に私たちも楽しく発表することができた ・みんなはとても元気いっぱい積極的に参加してくれた ・手をあげてたくさん質問してくれて、「もっと知りたい」と思ってくれた ・私たちの発表を聞いて、私たちが伝えたかったことをみんなが理解してくれていた ・みなさんの楽しんでる姿も見ていて、話をしている私自身もとても楽しかった ・みなさんの笑顔を見て、パワーをもらった ・やりがいを感じるすることができた
【小学生に期待する】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康について考えてくれるようになったらとてもうれしい ・今回学んだことを生かしほしい ・たくさん力を身につけてほしい ・心と体をきたえる大切さを年下の子たちに優しく教えてあげてほしい ・今日覚えたことを忘れずに、楽しく学校生活を送ってほしい ・今回知ったことについて家族の人にもみなさんから教えてあげてほしい ・今回勉強したことを、ぜひふだんの生活の中で取り組んでほしい ・自分にできることを考えて、調べてやってみることができる大人になってほしい ・これからもっといろんなことに興味をもって積極的に自分からどんどん行動してほしい ・少しでも自分の生活について見つめ直すことができたらいいなと思っている ・今回、学んだことを毎日の生活の中で活用して健康的な生活を送ってほしい ・みなさんの生活に少しでもいい変化があればいいなと思っている ・自分で考えて行動できるようになれば私達もとてもうれしい ・今回学んだことをきっかけに健康な大人になっていってもらえればうれしい
【自分が実施した教育を評価する】	<ul style="list-style-type: none"> ・説明がむずかしくてわかりにくかったところもあった ・もっとわかりやすく伝えたかった ・わかってもらえたみたいで良かった ・少しわかりにくい点や工夫がたりない点もたくさんあった ・クオリティが高くなかった ・うまくできなかった部分もあった

表5 小学校教員からの報告内容

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・大学で授業を受けた後、帰宅して家族にその内容を伝えていた。 ・「看護師になりたい」、「お母さんみたいになりたい（母親が看護師）」、「看護大学に行きたい」、「医者や看護師の仕事について調べたい」という児童がいた。 ・後日、幼稚園児との交流会で、「大学のお兄ちゃんやお姉ちゃんに優しくしてもらって嬉しかったから、自分も幼稚園の子に優しくしてあげる」と幼稚園児のめんどうを積極的に見ていた。 ・大学生から紹介してもらったおやつレシピをもとに家庭科で調理実習を行い、学習内容を復習した。 ・授業参観で児童の書いた感想文を掲示し、来校された保護者ともコラボレーション授業の体験を共有した。

体験により対象理解を深め、健康教育の場では不足していた情報をしっかり伝えようとする反応につながっていたと考える。また、小学生から得た生の反応や小学生に期待する内容の記述があったことから、大学生は健康教育を実施中に小学生の反応をしっかり観察し、小学生の能力を認めていたと考えられる。小学生の反応をしっかり受け止め、喜びを感じたり、小学生に理解できる内容に変えたりしながら、大学生自身が楽しみながら健康教育を実施し学びを深めていたといえる。矢島ら(2007)は、これまで学習者の立場しか経験してこなかった学生が、初めて自らが健康教育の実践者の立場に立ったことで、継続学習の必要性、専門職としての倫理や責任について考える機会を得ると述べており、今回、小学生が熱心に話を聞いてくれたり、多くの質問をしてくれたりしたことから教育することの責任という職業人としての認識を強める機会となったと考えられる。

矢島ら(2007)は地域住民に直接働きかけてその反応を学生自身が受け止めることで、専門職としての自覚を促し、より実践的な目標を目指して演習に取り組む強い動機づけになり、講義室の中では体験し得ない不測の事象に対しても、様々な事態を想定して準備を進めることや場面に応じた柔軟な対応の必要性の学びができると指摘している。短い学習時間であったが直接小学生に健康教育をおこなうという体験は、大学生たちが机上の学習では発揮することがなかった自分自身の新たな力の発見にもつながり、今後、他の学習場面においても活かすことができると考える。

また、入江ら(2005)は、看護学生が高校生に実施した健康教育の評価のなかで、近年大学生を含む若者の傾向として自尊感情が低い傾向があると言われているが、比較的近い年代にある高校生から自分達の行った健康教育に対して肯定的な反応を得たことは、実施した看護学生の自尊感情や自身を高めることにつながると述べている。今回実施した演習では、小学生から肯定的な反応を得たことで、従来の大学生同士でおこなう演習からは得ることが難しかった経験値の向上に加え、自信の獲得にもつながったと考える。

さらに、矢島ら(2007)は、地域住民を対象とした演習という教育形態による学習効果の高さと波及的な学習効果と地域住民を対象とすることによる学生の演習に対する取り組みの真剣さが生み出す学びの深みと広がりについて報告している。1975年、日本における医学教育に模擬患者(simulated patient: SP)が紹介された後、看護

教育に模擬患者を導入しようとする動きが広がった。阿部ら(2012)は、実習前の演習に地域住民が模擬患者として参加することの意義は、模擬患者参加型教育における授業改善への示唆と地域住民への健康教育の機会となることを指摘している。模擬患者参加型教育との違いとして、模擬患者は担当教員等から事前に訓練を受け役割を演じており、本人のありのままの反応ではない場合も予想される。しかしながら、小学生からはありのままの反応を得ることができ、大学生にとっては実習同様の経験を積む機会となったと考える。大学生が実習前にこのような経験をすることは、今後の実習でも活かされることが期待できる。

3. コラボレーション授業の効果と意義

小学生にとっては未知の場であった大学内に初めて入り、大学生と接することで、「大学で勉強してみたい」、「看護師になりたい」といったキャリア教育にもつながっていた。また、小学生にとって大学生から授業を受けることは普段経験することがない体験であり、大学生からの健康教育をととても肯定的に捉えていた。小学生は健康教育を受けることで知識の習得のみならず、大学生のよいところをしっかりと評価し感想文のなかで文章化することができており、短い時間のなかで大学生と交流し、大学生の優しさや人へのかかわり方を学んでいた。後日小学校で実施された幼稚園児との交流場面において児童は幼稚園児にやさしく接していたという小学校の教員の報告内容からも、小学生が大学生をロールモデルとしていたといえる。

さらに、今回実施したコラボレーション授業は、小学生にとってピアアプローチにもつながっていたと考える。ピアアプローチ(ピアエデュケーション)とは、仲間によるアプローチであり、グループやネットワークのメンバーが自分の仲間に対して情報や教育あるいはカウンセリングを提供するものである(尾崎ら, 2002)。ピアエデュケーションは、より年齢が近く価値観を共有できる存在(peer)による健康教育であり、親や教師が行うそれと異なり、同世代の仲間意識の共感・支持によって、態度変容や行動変容が起こることが利点とされている(高村ら, 1999)。小学生は大学生を身近な存在と感じていたことから大学生を肯定的にとらえ、行動変容につなげやすかったと考えられる。濱田ら(2006)は、看護大学生が小学5,6年生に実施した性教育活動から、年齢差を身近なお兄さん、お姉さんの存在(清水,

2001)による「ななめの関係」としていかすことによって、共感・支持といったピアアプローチが可能で、年齢差のある対象者に対しても、対象者との関係性構築に根差したプログラムによって仲間教育としての効果が期待できると述べている。渡邊(2005)も、知識提供だけではなく、普段あまり意識していない自分自身や家族、異性、友人などについて客観的に考える機会をつくり自身や自己評価を高めることも期待していると述べている。以上のことから、今回おこなったコラボレーション授業はピアエデュケーションとしての意義も強かったと考える。コラボレーション授業では、大学生と小学生が情緒的な刺激を受けあうことで相互理解が深まるとともに経験値の向上も望め、さらにはロールモデルやピアエデュケーションといった波及効果も認められ、今後もこのような取り組みを継続していく必要性が示唆された。

謝辞

本取組みにご協力いただきました小学校の校長先生はじめ、5年生のクラス担任の先生方、家庭科担当の先生、養護教諭の先生、小学5年生の児童の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 阿部オリエ, 小手川良江, 本田多美枝他(2012):看護学実習前演習に地域住民が模擬患者(simulated patient: SP)として参加することの意義に関する研究, 日本赤十字九州国際看護大学紀要, 第11号, 49-58.
- 濱田維子, 小林益江, 佐藤珠美他(2006):看護大学生ピアエデュケーターによる小学生への性教育活動の試み—年齢差のある対象へのピアアプローチとその評価—, 日本赤十字九州国際看護大学IRR, 5, 10-16.
- 入江晶子, 黒野智子(2005):高校生を対象とした看護学生による健康教育実施の試み, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 13, 115-122.
- 石井康子, 泊祐子, 長谷川桂子他(2006):学校看護実習からの学生の学び(第2報), 岐阜県立看護大学紀要, 7(1), 3-9.
- 村嶋幸代編(2011):最新保健学講座2公衆衛生看護支援技術第3版, 健康教育, 164, メヂカルフレンド社, 東京.
- 日本健康教育学会編(2003):健康教育—ヘルスプロモーションの展開, 66, 保健同人社, 東京.
- 尾崎米厚, 鳩野洋子, 島田美香編(2002):いまを読み解く保健活動のキーワード, 157-159, 医学書院, 東京.
- 清水凡生(2001):総合思春期学, 5, 診断と治療社, 東京.
- 高村寿子編(1999):性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング, 32, 小学館, 東京.
- 津村智恵子, 上野昌江編(2012):公衆衛生看護学, 244, 中央法規, 東京.
- 矢島正榮, 小林亜由美, 小林和成他(2007):保健師基礎教育における健康教育技術の教育のあり方, 群馬パース大学紀要, 4, 517-525.
- 渡邊至(2005):「性に関するピアカウンセリング」による思春期の性行動に対する認知行動学的アプローチ, 思春期学, 23(3), 295.